

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報

第6号

果樹

発行日 平成22年 8月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

りんごの肥大は平年並みまで回復！早生種の適期収穫・すぐりもぎの徹底を！！
ぶどうも品種特性が発揮される適期収穫を！！

りんご

1 生育状況

(1) 果実肥大

定点観測地点(表1)の果実肥大(横径)を県平均で見ると、開花が遅くなったことによる遅れはかなり回復し、概ね平年並みとなっています。しかし、8月以降は高温の影響により果実肥大はやや停滞気味です。

(2) 果実品質

定点観測地点の「つがる」の果実品質を県平均で見ると、硬度は平年よりやや高め、糖度は平年よりやや低めで推移していますが(図1、2)、デンプン指数(図3)はほぼ平年並みとなっています。

開花が遅れたため、熟度は進んでいませんが、地域によってばらつきも見られます。また、気温が高い状態が続いているので、収穫期は平年並みからやや遅れるものと予想されます。さらに、高温が続くことから果肉先行で熟期が進む可能性があります。適期の着色管理並びに適期収穫を進めましょう。

表1 りんごの果実肥大状況

(単位:mm)

8月21日時点の生育状況	つがる					ジョナゴールド					ふじ				
	本年(H22)	前年(H21)	平年	前年比(%)	平年比(%)	本年(H22)	前年(H21)	平年	前年比(%)	平年比(%)	本年(H22)	前年(H21)	平年	前年比(%)	平年比(%)
軽米町	79.3	85.3	80.6	93	98	75.5	77.5	78.9	97	96	67.2	74.3	68.9	90	98
二戸市	77.5	85.0	81.3	91	95	74.0	78.7	81.0	94	91	72.5	80.6	73.3	90	99
岩手町	74.7	79.6	80.7	94	93	75.3	77.3	79.4	97	95	74.5	75.9	71.3	98	104
盛岡市	81.3	81.7	80.4	100	101	76.3	78.9	79.0	97	97	71.0	73.4	72.9	97	97
紫波町	78.6	83.3	84.9	94	93	80.1	83.9	80.9	95	99	73.9	78.4	74.6	94	99
花巻市	84.1	87.0	80.8	97	104	82.3	84.1	80.3	98	102	71.2	77.7	71.5	92	100
農研センター	81.9	82.2	82.8	100	99	78.3	76.8	80.4	102	97	71.7	75.4	73.8	95	97
北上市	82.9	91.7	85.2	90	97	78.5	87.4	83.4	90	94	73.1	81.0	77.1	90	95
奥州市前沢区	84.7	87.5	83.5	97	101	79.8	79.1	79.4	101	101	78.4	76.9	75.1	102	104
奥州市江刺区	78.7	82.2	80.2	96	98	75.7	79.6	80.0	95	95	68.7	72.1	71.1	95	97
一関市花泉町	77.2	84.7	82.3	91	94	79.0	80.6	78.8	98	100	70.0	75.3	71.1	93	98
一関市大東町	82.0	84.3	82.2	97	100	76.7	80.2	77.2	96	99	72.7	76.8	73.3	95	99
陸前高田市	76.6	84.9	82.9	90	92	74.6	75.7	77.7	99	96	64.1	71.1	72.2	90	89
宮古市	78.3	83.6	80.2	94	98	76.0	82.2	80.7	92	94	72.3	79.1	73.9	91	98
岩泉町	72.3	80.2	81.8	90	88	80.1	82.2	74.5	97	108	69.4	82.4	72.7	84	95
洋野町大野	77.4	80.9	77.8	96	99	73.3	79.9	77.0	92	95	68.6	72.4	69.6	95	99
県平均(参考)	79.0	84.1	81.7	94	97	77.1	80.5	79.2	96	97	71.2	76.5	72.6	93	98

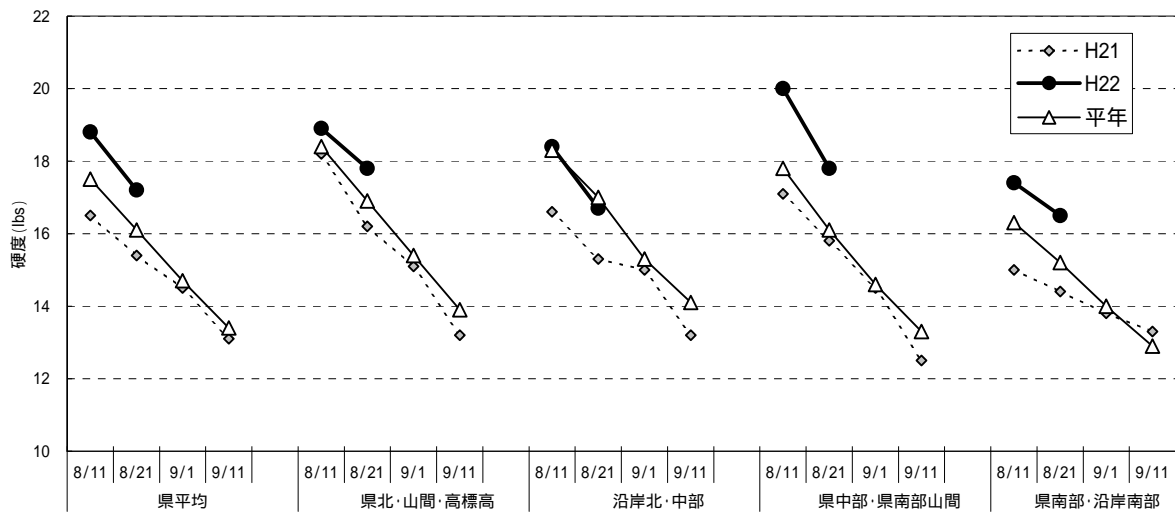


図1 つがるの硬度の経時変化

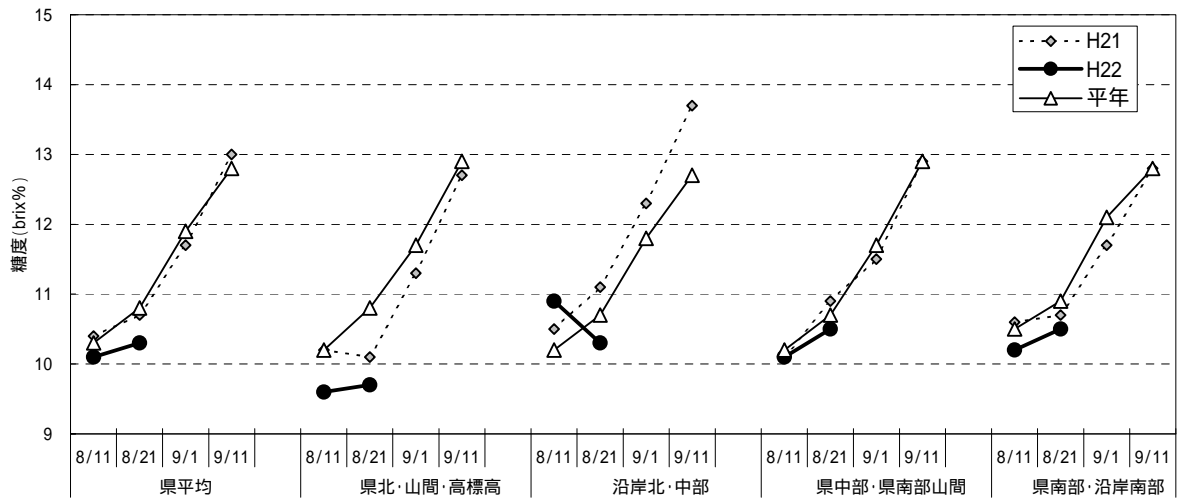


図2 つがるの糖度の経時変化

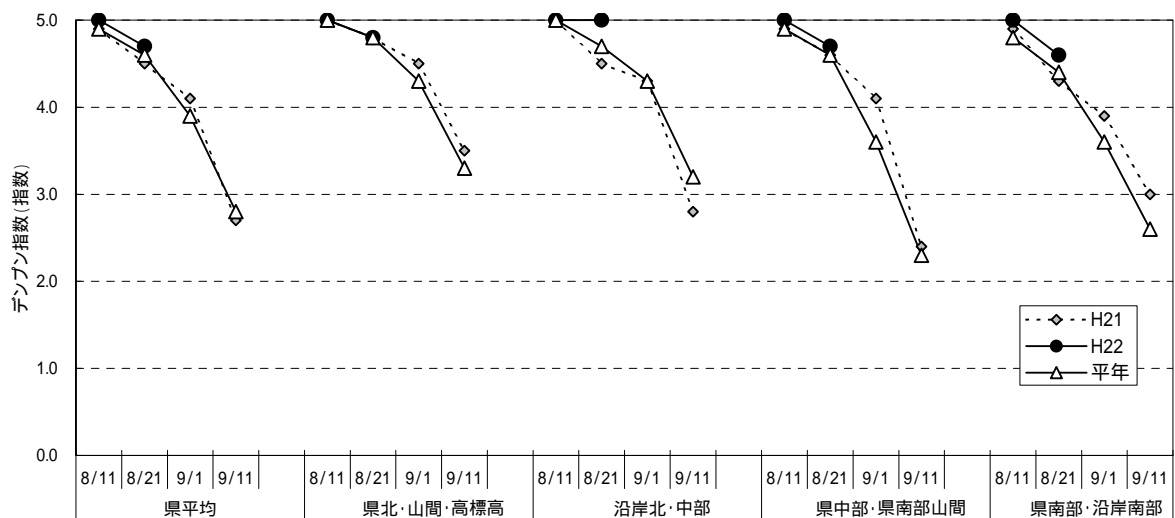


図3 つがるのデンブ指数の経時変化

2 管理作業

(1) 早生種の着色管理

ア 「さんさ」、「つがる」について作業を実施します。

イ 1回目の軽い葉摘み終了後、陽光面の着色が進んでから、葉や枝カゲをつくらないように玉回しを収穫まで2～3回行います。玉まわしと同時に適当な強さに葉を摘みます。しかし、果皮に急に直射日光が当たると日焼けが発生しますので、徐々に葉摘みを進めましょう。

ウ りんごの着色適温は15～20℃です。気温の高い日が続くと、必要以上に葉摘みを強くしても着色は進まないの、過度の葉摘みとしないよう注意します。

(2) 収穫(表2参照)

ア すぐりもぎが基本です。特に熟期が不揃いな「つがる」や「きおう」は徹底しましょう。

イ 「きおう」は、ツル浮き(内部裂果)が発生しやすく、これは正常果よりも早く熟しますので、特に収穫前半はツル浮き果が混入しないよう注意してください。本年は、ツル浮きの発生が多い傾向にありますので、特に注意が必要です。

ウ 「つがる」は、収穫後の果肉の軟化が早く、また、収穫が遅れると果面に油上がりが発生しやすいので、地色に注意して遅取りを避け、収穫後はできるだけ早めに予冷しましょう。

エ 落果防止剤にストッポール液剤を散布した場合は、散布日から7日以上開けて収穫します。

表2 早生種の収穫期の目安

品種	満開日 起算日数	硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	デンプン 指数	カラーチャート 指数
さんさ	115日	13.5～14	13～14	2～3	2～3
つがる	115～125日	13～14	12～14	3～3.5	2～3
きおう	115～125日	13～14	13以上	2～3	2.5～3.5

：さんさ、つがるはふじ地色用、きおうはきおう用表面色用を使用

(3) 「黄香」の管理について

本年の「黄香」の満開期は、4月中旬以降の低温の影響で、前年に比べると10日前後遅れ5月17～20日となりました。

本年も「黄香」の安定生産のため、以下の点に留意して収穫前管理を進め、品質の良い果実の収穫に努めてください。

ア 満開起算日数からみた収穫期の目安について

「黄香」の収穫適期判定基準は表3のとおりで、基準の1つに満開起算日数130～135日があります。早生品種の熟度を見るとほぼ平年並みからやや遅い状況となっています。「黄香」についても平年並み程度と考えられ、満開起算日数の満開130～135日後が収穫期の目安となると考えられます。なお、今後の気象や果実品質の変化によって、変動することもありますので、注意してください。

表3 「黄香」の収穫適期判定基準

「黄香」表面色 カラーチャート 指数	満開日 起算日数	硬度	糖度	酸度	デンプン 指数
指数4～4.5	130～135日	16lbs程度	13%以上	0.3%以上	2以下

イ 「黄香」表面色カラーチャートを利用した収穫期の判断

農研センターの平成 18 年度における研究成果で、表面色カラーチャートを利用した収穫適期判断が可能となりました。収穫適期の目安は、指数 4～4.5となります。表面色カラーチャートについて、欲しい方や詳しい使い方については、各普及センター、農協などにお問い合わせください。

ウ 収穫時の留意事項

「黄香」の最終的な収穫期の判断は、果皮色、糖度、硬度等を加味し総合的に判断します。収穫が早すぎると食味が劣り、収穫が遅れると裂果を助長する要因となりますので注意して下さい。なお、「黄香」の果実は比較的熟期が揃う傾向がありますので、ほぼ一斉収穫が可能と思われますが、すぐりもぎをする場合は、熟期の遅れているものを残す感覚で行ってください。

エ 落果防止剤の散布

「黄香」は収穫前落果が見られることから、落果防止剤を散布する必要があります。

平成 20 年度の農研センターの研究成果で、「落果防止剤(商品名:ストップール液剤)の 1,000 倍の早期散布は、熟期を早める傾向が伺われ裂果を助長する」とされています。したがって、本年の落果防止剤の散布は裂果軽減を図るため、ストップール液剤を希釈倍数 1,500 倍、散布時期は収穫 10 日前の使用が望ましいと考えられます。なお落果防止効果は 1,500 倍でも十分にあることが認められています。

これを収穫期の目安から計算すると、本年の散布時期は 9 月第 3 週頃になると思われます。

オ 裂果が発生した場合について

「黄香」は、場合によって、収穫前に裂果(縦割れ)が発生します。園地で裂果が発生した場合は、果実内容が十分かどうかを確認して収穫を開始します。なお、いずれの場合も落果防止剤の散布後の日数を確認し、使用基準を遵守の上、収穫を開始するようにしてください。

3 病虫害防除および気象災害対策

(1) 病虫害防除

今後の気象条件によって、斑点落葉病や褐斑病、ハダニ類等が発生することがあります。予察情報等を参考にして、必要な防除を実施しましょう。農薬を使用するに当たっては、使用基準(倍率、収穫前日数等)に十分注意してください。

(2) 台風対策

これから、台風が多く発生する時期になります。強風で倒木が発生しないよう、防風ネットの設置、支柱との結束を確認してください。また、気象情報に注意し、台風の接近前に収穫を進めるなど、被害を最小限にできるよう対策を講じてください。

(3) 湿害対策

台風に伴う大雨や秋の長雨など、園地内が過湿となった場合、裂果や根部の障害による樹勢衰弱の要因となります。園地内に水が停滞しないよう、溝を掘るなど排水対策を講じましょう。

ぶどう

1 生育状況

8 月 15 日時点の定点調査地点における「キャンベル」の果実品質は、果粒肥大および糖度の上昇とも平年より高くなっています(表 4)。また、着色は概ね平年並みの状況です。一方、「紅伊豆」の着色は遅れています。

これから収穫時期をむかえますが、糖度や酸抜けなどの果実品質を十分に確認してから行いましょう。

2 管理の要点

(1) 収穫

収穫は着色、糖度などの食味に留意しながら、表 5 の品種ごとの基準糖度に達してから行います。過熟になると商品価値が落ちるので、適期収穫に努めましょう。

早生品種や栽培法によっては、すでに収穫期に入っているものもあると思われていますが、収穫に

当たっては、農薬安全使用基準の収穫前日数には十分に注意してください。

収穫は、果実温度が低い早朝から午前中に行います。降雨直後は、糖度も下がり、輸送中の腐敗も多くなるので避けるようにしましょう。

選果・調整は、果粉を落とさないように穂柄を持ち、未熟果、腐敗果、裂果等を除き、出荷形態に即して房形を整え出荷しましょう。

(2) 裂果対策

収穫直前の急激な土壌水分変化は、裂果の発生を助長します。土壌が乾燥し過ぎないように、こまめな雑草の刈り取り、樹冠下に敷きワラ等でマルチするなどの対策を実施します。また、降雨があった場合には、過剰な水分を早期に排水できるよう、根域の周辺にビニール等を敷く、溝掘り（明渠）するなどの対策を実施しましょう。

「紅伊豆」などの雨よけハウス栽培では、温度の高くなりやすいハウス中央部などで果実の着色不良や果肉の軟化が、裂果や脱粒を引き起こすことがあります。気温が高くなると予想される日は、サイドのビニールを巻き上げる、換気扇を利用する等温度が上がりすぎないように努めます。

表4 ぶどう(キャンベルアーリー)の生育状況(定点調査地点:紫波町赤沢)

	8月15日現在				
	新梢長(cm)	節数(葉数)	房長(cm)	果径(mm)	糖度(%)
本年(H22)	131.2	16.7	14.4	19.4	10.3
前年(H21)	137.6	17.9	16.3	20.6	10.6
平年	136.6	17.7	15.6	18.8	8.8
平年比	96%	94%	92%	103%	117%
前年比	95%	93%	88%	94%	97%

表5 品種別収穫時期の目安

品種	基準糖度	房の状態	備考
キャンベル	14%以上	房全体が黒紫色	
デラウエア	18%以上	着色完了2~3日後	酸抜けが遅い、食味重視
紅伊豆	18%以上	房全体が鮮紅色	過熟果は軟化や脱粒が多い
ハニーブラック	20%	房全体が紫黒色	脱粒少ない
サニールージュ	18%	房全体が紫赤色	脱粒少ない

農作物技術情報第7号は9月30日(木)発行の予定です。
 気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間
農作業 慣れと油断が 落とし穴 初心を忘れず 安全第一